

神田外語大学(学部入学定員:832人)

[取組学部: ○外国語学部(832人)]

【構想の目的・育成するグローバル人材像】

高度の外国語(地域言語および英語)運用能力を有し、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界平和に貢献し得る、幅広くかつ能動的コミュニケーション力を備えた自立した真の国際人の育成を図ります。

【構想の概要】

本構想では、これまで本学が重点的に取り組んできた「語学教育」「留学推進体制」をさらに強化・発展させます。具体的には、a)英語教育の改善(少人数教育・実践的運用能力育成に加えアカデミックな内容を付加)、b)英語で行なう日本事情科目群の設置、c)留学に向けた自立学習プログラムの開発、d)アジア圏を含む新たな留学先(英語)の開拓、e)教職員のグローバル化に向けたPD(Professional Development)活動の強化等を図り、グローバル人材の育成に資する取り組みを行なっていきます。

■ 教育課程の国際通用性の向上

○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

これまでの取組(カリキュラムポリシーに則った体系的なカリキュラムの編成、厳格な成績評価制度、主体的な学びの確立)の他、**シラバスの充実化**(多言語化、予習・復習内容等を表記)、13の研究プログラムごとに**科目分類一覧の作成**を行ないます。

○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

これまでの取組(教育情報の積極的な公表、および学会発表や国際会議の開催を通じた教育成果の普及)の他、HP等を通じ**英語による発信を強化**します。

○ 事務体制のグローバル化

これまでの取組(卒業生の積極採用、通信教育講座の提供など)を継続させる他、本構想に携わる職員を対象に、**海外研修プログラム**の実施、および海外提携大学との**職員交流**を実施することで、職員の語学力・交渉力・発信力の強化を図ります。

■ グローバル人材として求められる能力の育成

○ これまでに成果の上がっている取組の充実・継続化

本学の特徴である様々な取組:**SALC**(Self-Access Learning Centre・自立学習者支援センター)・**MULC**(Multilingual Communication Center・多言語学習センター)での取組、国内外ボランティア活動、および国内外インターンシップ制度を引き続き学生に提供し、自立学習者の育成を図ります。また、これまで様々な部署で管轄したボランティア活動を統括し、学生への情報発信の一元化、ボランティア活動の拡大を図る目的で、**KUIS Volunteer Center**を設置します。学生はこれらのセンターを目的に合わせて自由に活用できるため、課外においても、真の国際人に必要な資質・能力を自発的に培うことができます。

○ 教養教育の充実化

本学は「実践的な語学力」だけでなく、「幅広い教養」を涵養する目的で、13種類の研究テーマからなる「**研究プログラム制度**(研究科目)」を導入し、「**基礎科目**」、「**研究演習**」、「**卒業論文**」を含めた体系的なカリキュラムで教養教育を実現しています。本構想では、英語で学べる**日本事情科目群**(Japanese Studies Program)を設置し、語学力向上、自国伝統文化理解促進、および留学生との交流機会の創出を図ります。

■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

これまで本学は、志願者の経験や語学運用能力を高く評価する「推薦入試」制度を設け、面接を通して適切な評価を行なってきました。本構想では全ての入試制度に**ヒアリング試験**を導入することで、入試における外国語力の適切な評価を実現させます。

○ 効果的な語学教育及び教育体制

本構想では、従来から実施していた習熟度別に分かれたクラスを継続し、クラスのさらなる**少人数化**を図ります。また、コミュニケーションな授業スタイルをベースとした**アカデミックテラー教育の導入**、英語で行う**日本事情科目群**および**1・2年次上級クラス対象の特別科目**の設置等を行うことで、高度の外国語運用力具备了た学生の育成に取り組めます。

■ 教員のグローバル教育力の向上

○ 教育体制のグローバル化

本学はこれまでに、言語教育または応用言語学などの専門分野で修士号以上を取得し、かつ教授経験のある者をネイティブ語学専任教員として**海外の様々な地域で採用するシステム**を構築しております。本構想でも同システムを活用し少人数化を達成するために必要な教員を採用します。

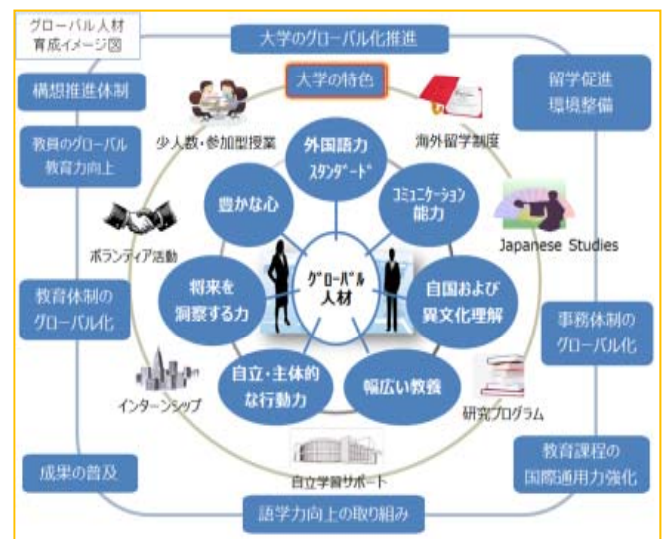
■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

○ 動機付けや留学を促進するための取組

本構想では、**SALC**において**Study Abroad Module**を開発・導入します。また、**アジアを含む新たな留学先(英語)の開拓**を行うことで、留学プログラムの充実化・多様化を実現し、海外留学経験者数の向上を図ります。

○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

これまでの取組(留学期間中のリスク管理として担当者制度の導入、留学後のキャリアサポートなど)の更なる充実化を図る目的で、留学中のコミュニケーション・ツールとしての**留学ポータルサイト**の開発・導入に取り組めます。



〈グローバル人材育成イメージ図〉

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

本学が定義するグローバル人材は、建学の理念、教育目的、教育の特色などを踏まえ、「高度の外国語（地域言語および英語）運用能力を有し、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界平和に貢献し得る、幅広くかつ能動的コミュニケーション力を備えた自立した真の国際人」です。

上記を踏まえ、卒業するまでに学生が修得すべき具体的な資質・能力を次の通り、7つ定義しています。①本学の外国語力スタンダードを満たす、高度の外国語運用能力、②自己の意見を適切に表現できるコミュニケーション能力、③他国の伝統・文化を尊重する世界観・歴史観、および自国の伝統に基づく深い文化観、④探究心にあふれ、新しい価値観を創造し得る幅広い教養、⑤冷静に将来を洞察する力、⑥自立的・主体的・能動的に行動できる力、⑦たくましさや品格を備え、さらに人の心の痛みを思う豊かな心、以上7項目が真の国際人として本学学生が修得すべき具体的な資質・能力となります。これらは「グローバル時代」に必要とされる人材が具えるべき要素も含んでおり、本学はこのような「21世紀型のグローバル人材」の育成を目指します。

本構想において実現する達成目標

全学		2011	2012	2013	2014	2015	2016	
外国語力スタンダードを満たす学生数				45人	80人	135人	200人	
うち海外留学未経験者数 (A)				7人	12人	17人	22人	
海外留学経験者数 (B)		428人	439人	450人	465人	481人	497人	
卒業[予定]者数 (C)		798人	810人	830人	850人	870人	890人	
比率 ((A+B)/C)				55.1%	56.1%	57.2%	58.3%	
外国語学部(英米語学科)	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-ITP 600		10人(1)	30人(1)	60人(1)	100人(1)	
	海外留学経験者数	166人	170人	175人	184人	194人	204人	
	3カ月未満	114人	115人	119人	127人	136人	145人	
		3カ月～1年	52人	55人	56人	57人	58人	59人
		1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
卒業[予定]者数	427人	430人	440人	450人	460人	470人		
外国語学部(国際コミュニケーション学科)	卒業時の外国語力スタンダード	TOEIC 800		25人(5)	30人(10)	45人(15)	60人(20)	
	海外留学経験者数	65人	70人	75人	80人	85人	90人	
	3カ月未満	41人	45人	49人	53人	57人	61人	
		3カ月～1年	24人	25人	26人	27人	28人	29人
		1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
卒業[予定]者数	172人	180人	185人	190人	195人	200人		
外国語学部(その他の学科)	卒業時の外国語力スタンダード	TOEIC 700		10人(1)	20人(1)	30人(1)	40人(1)	
	海外留学経験者数	197人	199人	200人	201人	202人	203人	
	3カ月未満	119人	120人	120人	121人	122人	123人	
		3カ月～1年	78人	79人	80人	80人	80人	80人
		1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
卒業[予定]者数	199人	200人	205人	210人	215人	220人		

※1)「外国語力スタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語力スタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。